



令和3年度旭市総合教育会議の概要をお知らせします

総合教育会議は、市長と旭市教育委員会が地域の教育に関する課題やあるべき姿を共有して、より一層市民の意見などを反映した教育行政の推進を図ることを目的として開催しています。

令和3年度は、以下の2つの議題について会議を行いました。

地域学校協働活動と学校運営協議会(コミュニティ・スクール)について

旭市教育委員会では「学校を核とした地域づくり」のため、地域学校協働活動と学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入を進めています。この事業は、豊富な教育資源や地域人材を活用し、学校・家庭・地域が連携・協働して活動することで、子どもたちの豊かな学びや成長を支えていく事業です。

令和4年度から地域学校協働活動を5校の小学校をモデル校として準備を進めていきます。

会議での主な検討事項など

- 事業の概要や、導入に向けたスケジュールの説明
- 疑問点や問題点について意見交換
- 地域学校協働活動推進員の役割や選任方法

- 学校や教職員への理解および負担の程度
- 現在の学校評議員と学校運営協議会の相違点
- モデル校の選定方法

ICT教育の推進について

継続的な議論が必要との意見もあり、昨年度に引き続き、ICT教育の現状や課題などについて意見交換を行いました。

昨年5月から、全児童生徒へタブレット端末を配布し、授業で活用する場面も徐々に増え、各自がタブレット端末を家庭に持ち帰り、自主学习などに利用できるようになりました。

会議での主な検討事項など

- ICT機器(タブレット端末、大型提示装置など)の効果的な活用
- 長期臨時休業などにおけるオンライン授業の実施に向けた環境整備
- ICT教育推進委員会の充実
- タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習の充実
- ICT支援員の活用
- 市内小・中学校の授業事例の紹介

このほか、やむを得ず学校に登校できない児童生徒へのオンライン授業、子どもたちの委員会設置、保護者などへの支援、学力向上などについても、多くの意見がありました。

会議の結果は市ホームページで見ることができます。

あさひ輝いた人々

第42回

教育と市政の発展に努力した人

やぎ きんじろう
八木 金二郎 (1913~1999年)



金二郎は、40年間教員として人づくりに専念し、3期12年にわたり市長として、まちづくりに尽力しました。

大正2(1913)年に生まれ、昭和8(1933)年に三川尋常高等小学校の訓導になり、教員人生がスタートしました。昭和49(1974)年、第二中学校長で退職するまで、約40年の永きにわたり、子どもたちの教育に携わりました。

その間、太平洋戦争などの影響で一時的に兵役や軍隊も経験し、戦争の悲惨さを味わいました。

昭和53(1978)年、市長に就任後は「ふれあいのある緑豊かな活気に満ちた都市づくり」を目標に、上水道事業を開始すると共に、生活道路の建設、公園の整備を行いました。その結果、安心して飲める水が各家庭に給水

できることになりました。また、道路などの整備に伴い、市民の生活環境は飛躍的に向上しました。

「まちづくりは人づくり」という信念の下、教育文化関係にも力を入れ、木造校舎だった一中の改築を行いました。市内の小・中学校にパソコンを整備し、旭地域教育情報センターとのオンラインによる学習情報システムを確立しました。これは当時、時代の最先端を行くもので、全国的なパソコン教育普及の先駆けとなりました。

福祉方面では、保育所を全面改築して保育環境の向上を図ると共に、勤労女性の交流の場として「働く婦人の家^(※)」を建設するなど、市民の福祉向上に努めました。

あさひ鎌数工業団地を造成して、商業の発展や雇用の拡大にも力を入れるなど、その活動は多岐にわたりました。

これらの功績により、平成3(1991)年に勲四等瑞宝章を受章し、旭市名誉市民にもなりました。

※現在のあさひ市民センター。



プロ野球選手の石毛宏典氏に旭市民栄誉章を授与する金二郎